



11月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

毎朝、幼稚園の入り口に立って子どもたちを迎え入れていると、「先生、ここどうしたん？」と指に貼っていたバンドエイドを指さして心配そうに話しかけてきたり、「今日、先生の靴変わってる!？」と普段履いている運動靴を変えた途端、気付いてくれたり、「髪切ったん!？」と散髪に行った翌日は必ずと言っていいほどその変化に気付いて声をかけてくれる場面が多くあります。

毎回、「よくそんなことまで気が付くなあ」と感心することが多くあり、子どもたちは幼いながらもアンテナを張って、毎日色々な景色や人を見ているんだなと気付かされます。この気付きの能力は、年を取るほど衰えていくような気もしており、だんだん当たり前に慣れてしまっていて、少しの変化に気付かなくなってしまうのかもしれないと自分自身反省する時があります。

幼稚園では、四季折々自然や時事的なニュースなど、できるだけ子どもたちの目につくところに触れることができるような環境を作ることが大切に行っています。月が代われば、カレンダーも1枚めくるように保育室の環境内容も変えていきます。ふとした変化に気付く子どもたちにとっては、頭で覚えるより、五感をフルに使った方がはるかに吸収していく力も大きく、そのスピードも速いのだろうと思います。今年は暑い夏が長く続きましたが、これから秋も深まりそして冬を迎えます。葉っぱの色も変わっていき、神様が作られた季節の移り変わりを感じやすい時期です。園外保育にも出かけることで、たくさんの自然を感じて欲しいと願っています。

しかし、子どもたちの気付きは、決して目に見えるところだけが敏感なわけではありません。目に見えない人の心の状態にも敏感です。私たち大人の心も見透かすように感じる力があります。子どもたちのすぐ側にいる親の心が穏やかでない時は、その空気感を敏感に読み取り、子どもたちの心もざわつくような時があります。「親は子の鏡」という言葉があります。本来、子どもというのは親の行動を映すものであると言われてはいますが、決して行動だけでなく、心情をも映すのだと思います。子どもたちが元気に楽しく遊ぶことができる背景には、少なからず周りの環境は大きく影響していることを忘れてはいけません。また、幼稚園は子どもたちだけを保育しているわけではなく、保護者、そして家庭を支えていくべき使命があるとも感じています。

先日は、運動会で保護者の方もたくさん参加いただき、親子学級では玉入れを子どものように楽しみながら一所懸命取り組む姿も見ることができました。親が元気なら子どもも元気。幼稚園を通じて、子どもも保護者も楽しく元気に過ごせるように、私たちも微力ながら考えていきたいと思っています。

【年主題】

「さあ、漕ぎだそう 奏でよう」

【年主題聖句】

「わたしは道であり、真理であり、命である。」

(ヨハネによる福音書 14章6節)

11月主題 「ありがとう」

聖句 「成長させてくださったのは神です。」

(コリント信徒への手紙 I 3章6節)